

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年7月28日

[テーマ] 女性の活躍推進—生産性向上の鍵に—

日本銀行は6月、「各地域における女性の活躍推進に向けた企業等の取り組み」と題するレポートを公表した。

人手不足が強まる中、女性や高齢者など、多様な人材が企業で活躍できるような環境整備が重要になっている。こうした問題意識のもと、今回のレポートでは女性の活躍推進に焦点を当て、本店と、全国の支店において企業ヒアリング等を実施し、各地の企業や自治体等による環境整備の取り組みを調査した。

群馬県には「かかあ天下」の土壌があり、女性の労働参加の重要性は昔から広く認識されてきた。しかし、今回のレポートで取り上げた統計をみると、群馬県の数値は、女性労働力率では全国平均を上回ったものの、女性管理職比率は全国平均をわずかながら下回っていた。

群馬県の企業では、女性の活躍を引き出すためのユニークな取り組みが数多くみられ、レポートの中でもその一部を紹介している。例えば、①工場の食堂や化粧室の改装で工夫を凝らすといった環境改善を行い、女性の採用が増加した②出産・育児を経ても女性が働き続けられるよう、複数企業向けの事業所内保育所を設置した③力仕事の多い工場の現場で、負担を減らすための設備投資を実施し、女性の配属を可能にした—といった取り組みが挙げられる。

行政も「群馬県いきいきGカンパニー認証制度」の運営や、子育て中の女性を対象にした「ジョブカフェ・マザーズ」の設置などを通じて、働く女性の活躍を支援している。こうした取り組みの成果として、出産・育児期にある層の労働参加が、近年ははっきりと増加している。また、女性の商品開発担当者がその感性を生かしてヒット商品を提案するといった例もある。

女性社員の活躍推進を図るために、社内でダイバーシティーマネジメントに関する研修や、「イクメン講習会」を実施していたり、トップダウンによる長時間勤務体質ひいては社内の働き方全般の見直しに踏み込む県内企業もある。

企業等の多角的な取り組みが広がれば、企業部門の生産性向上や、わが国経済の成長力強化にもつながりうるのではないか。

〔 日本銀行前橋支店長
岸 道信 〕